



りんごの音符

27

音楽は生活の一部。ふとした瞬間にリズムを取っていたり、いつの間にか指が動いてたり。もっといい演奏をするにはどうしたらいいかを無意識に考えています。

トランペットはクラシックにとどまらず、ジャズ、ポップス、ドラマ、映画音楽などさまざまなジャンルで活躍し、普段の何げない生活の中でも特に耳にしやすい楽器。ファンフ

トランペット

重井 吉彦さん (鹿児島出身)

アールのように輝かし華やかな音が出る一方、歌うようにやがり温かみのある音色も出せる。心をグッと引きつける多彩な音色が魅力です。

心引きつける多彩な音色

トランペットとの出会いは小学生時代に聴きに行った吹奏楽部の演奏会。キラキラしたかっこいい見た目、ホールに輝かしく響き渡る美しい音色。すぐに心をつかまれ、小学4年生で吹奏楽部に入部し、トランペットを始めました。

当時は学校の先生になりたいという目標もあったのですが、中学、高校と吹奏楽を続けていく中で「もっとトランペットの勉強がしたい」と

思いついて、その両方がかなう東京芸大に進みました。在学中は金管五重奏や学生オーケストラで演奏する機会が多く、そこで知った「一人と音を重なる楽しさ」が今につながっています。

大学3年生の時から徐々にプロオーケストラとして呼ばれていただけに、今更に見たこともない景色の中でトランペットを吹くことができる喜びがオーケストラ入



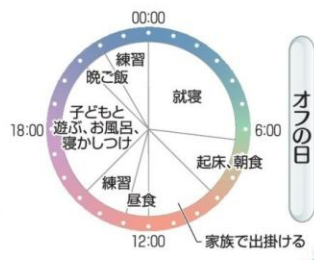
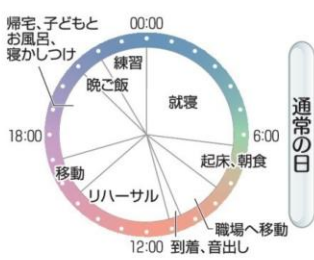
重井吉彦さん

「へい、よしひ」1993年、鹿児島県出身。鹿児島県立高等学校音楽科卒業。第85回読売日本交響楽団新人演奏会に出演。第10回済州ブラストンペティション金管五重奏部門第1位。東京フィルハーモニー交響楽団を経て2009年より読売日本交響楽

団トランペット奏者。『はんだウインドオーケストラ』『Mentimeter Brass Ensemble』『ZER O Tokyo』『BRAVITR OMBE!!』のメンバーとしても活動している。



読売日本交響楽団の定期演奏会でトランペットを吹く重井さん (中列左) ー6月、東京・サントリーホール (C読響、撮影・藤本崇)



の発信、子どもたちにとっては音楽に触れるきっかけとなったり、地元への愛着も増えたり。挙げたらきりがないほど地域にとって良い影響ばかりです。

新たな音楽祭誕生の瞬間に立ち会えたことは演奏家としても幸せでした。ゼロから創り上げたとは思えないほど第1回から充実した内容でこの先どうなっていくのかがとても楽しみです。

私は11月6、8日の「オーケストラコンサート」で同日7日のファミリーコンサートに出演します。トランペット的には青森市出身の奏者・山川永太郎さんが演奏される「ハトと少年をオスメします。トランペット」という楽器をよく知らない方にも

作曲家はこんな人

ラヴェル

ラヴェルは、ドビュッシーと並ぶ近代フランス音楽の重要人物です。「管弦楽の魔術師」とも言われ、時計職人と称されるほど、無駄な音や偶然に頼った部分がほとんどありません。どの楽器がどこで何を鳴らしているか、その計算が極限まで行き届いているのです。

ラヴェルは、バロック時代の舞曲

(クーブランの墓など) や古典派の形式を好んで引用・模倣しました。しかしそれは単なる懐古趣味ではなく、「過去のスタイルを現代的なアプローチ(新古典主義の先駆け)でした。

また、ラヴェルの代表作の一つである「ボレロ」は、メロディーがずっと

同じで、しかも途中で転調せず、ただオーケストラの楽器の組み合わせと音量だけでトランス状態に追い込んでいく手法で書かれており、聴き手を徐々に洗脳していくような魔力を持った楽曲なのです。

晩年、「ピアノ協奏曲ト長調」や「ヴァイオリン・ソナタ」などでジャズを取り入れたこともラヴェルの作品の特筆すべき点です。クラシック音楽の最高峰にしながら、アメリカの黒人霊歌やジャズのブルーノート、ブルースの響

きをいち早くキャッチし、自分の音楽に取り入れたセンスの良さは評価に値します。ラヴェルの和音の響きがなぜあんなに「都会的でスタイリッシュ」に聞こえるのかについて、「クラシックの伝統に、アメリカの新しい血(ジャズ)を絶妙な分量でブレンドしたからこそ」と分析する音楽学者もいます。

同じくフランスを代表する作曲家のドビュッシーとラヴェルを比べた場合、大きな違いは何でしょう。それは、ドビュッシーが機能と和声の束縛か

ら脱け出し、新しい空間を切り開いたのに対し、ラヴェルは古典的なソナタ形式や厳格な和声の枠組みの中に身を置きながら、その内部でスリリングな実験(高度な半音階やモードを使用)を行ったことです。

ラヴェル作曲の有名な作品としておすすめしたいのが、「亡き王女のためのパヴァーヌ」や「ラ・ヴァルス」です。みなさんも自分のお気に入りのラヴェルの一曲を探してみてくださいね。

(県吹奏楽連盟監修)

2026年10月31日～11月8日に第2回「青い海と森の音楽祭」が開かれます